

北川集落跡

土砂に埋没した北川集落

大鹿村の鹿塩川沿いにあった北川集落は、三六災害が発生した1961（昭和36）年6月27日、豪雨による土石流で39戸の民家と北川分校が土砂の下に埋まった。

さらに、29日には西山が地すべりを起こし、鹿塩川を一時的に堰き止めた。

鹿塩川に架かっていた橋の取り付け部分が流され、コンクリート部分だけが門のように残る。



西山の地すべり末端、鹿塩川右岸にある記念碑



現在も三六災害時のまま残る橋の跡

information

□ アクセス

駒ヶ根ICから25km
車→50分

□ 所在地

大鹿村鹿塩



北川地区

北川分校

多いときには110戸もの家があったというが、昭和36年の災害(三六災害)当時は39戸だった。三六災害時には、村人は集団キャンプをして救助を待った。1.5km程北に中央構造線の北川露頭がある。

鹿塩小学校北川分校は、土石流に襲われ、いち早く破壊されてしまった。一方、大花沢からの土石流で鹿塩川の河床が上昇し、川沿いの民家は土砂に埋没してしまった。分校は1962（昭和37）年に閉校。北川集落はこの水害を機に、1963（昭和38）年に廃村となった。



(国土地理院の数値地図25000(地図画像)を使用)